

足和田山で新たな発見

T K

を下にしながら、のんびりゆつたりで歩く。富士山はたまに雲に隠されることもあったが、逆光気味にほぼ一日中裾野までその姿を見せている。

口々に、「富士山の雪が少ない！」と言っている。五合目から上も一面真っ白ではなく、一分黒くなり筋状になっている。

前日に、富士山に『濃鳥』の雪形が現れた！とTVで放送されていた。通常は富士山にこの雪形が現れると田植えを始めていると言う。位置的に『濃鳥』の雪形は観られないが、これでは現れるだろうと実感させられる。

富士山のスカイラインは指

数曲線らしい。東側は綺麗な曲線だが、西側は大室山から始まり側火山で凸凹している。こんな富士山の姿は初めて見た。また、頂上は平らではなく三峰のようである。新たな発見であった。

紅葉台でストーブを囲み、間近の富士山を眺めながら、甘酒・なめこ汁などを注文し、歓談する。

曇り空のため夕日のダイアモンド富士はあきらめ、御坂山塊の登山口の調査も兼ね西湖・河口湖北岸を通り帰埼。河口湖付近からの富士のスカイラインには、側火山による凸凹は認められなかった。



連日晴れマークが続いていたが予報は曇り、その通りに雲が覆っている。風も弱く、危険な箇所もない快適な登山道脇の花はドライフラワーになっている。富士山を真南に見ながら、時折西湖・河口湖



【山行日】 H 27 年 1 月 6 日
【参加者】 S々木雅、後T、K原塚、O栗、

K端、TK、
他 1 名